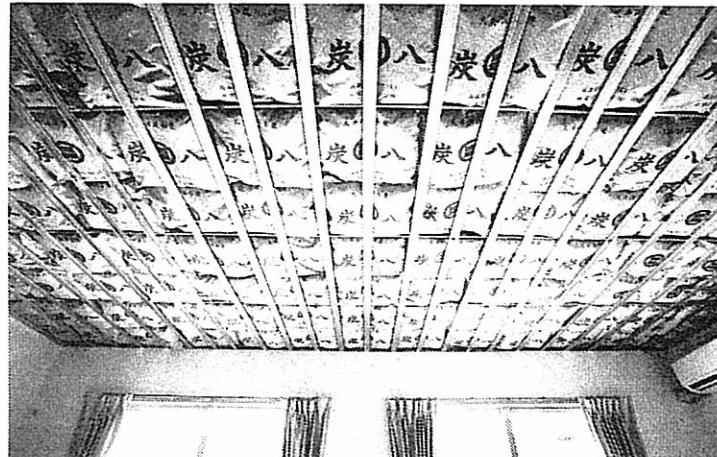


2012年(平成24年)6月27日(水曜日)



天井裏に炭八を敷き詰めて音問題を解決

炭八は、廃木材の有効利用方策として開発した除湿効果のある調湿木炭。同社は、出雲市内の賃貸マンション28棟に導入しており、現在も4棟が施工中という。「炭の家」と名付けたこれらの住宅の入居者にアンケートを行ったところ、除湿効果に加え、上階からの衝撃音を減らす効果があることが判明した。

そこで、スラブ厚15cmの天井・床下に敷き詰めることで音を減らす効果があることを立証。このほど住宅品確法に基づく大臣認定を取得した。

リフォーム・リノベーション需要を取り込みながら、除湿や過乾燥、衝撃音、節電など、マンションが抱える各種課題の解決策として期待される

出雲土建

既存マンション

リフォーム需要開拓

出雲土建(島根県出雲市、石飛裕司社長)は、既存マンションを対象に重量床衝撃音を低減する活動に乗り出す。リフォーム工事で吸音効果のある独自開発の木炭(炭八)を天井・床下に敷き詰め、生活音の「ドスン」という響きを低減させる。木炭を使った衝撃音対策で住宅品質確保促進法(住宅品確法)に基づく性能表示で国土交通大臣の認定を取得したことを受け、床スラブ厚が15cmと比較的薄いマンションをターゲットに木炭の導入を提案する。全国展開を目指し施工会社などでのネットワーク組織も立ち上げる計画だ。

認定をきっかけに同社は、賃貸マンションの新築を中心に進めてきた炭八の導入を既存マンションにも拡大。リフォーム・リノベーション工事に提案することで、膨大なマンションストックの音問題を解決する技術として役立ててもらう活動に取り組むこととした。

全国展開に向けて同社は、炭八の施工ラインセンスを与えている14社を中心、「出雲屋炭八ネットワーク」と呼び「ランチライズ組織を立ち上げる計画」。「まずは施工のマニュアルや営業ツールなどを1年がかりで作り、マンション施工を手掛けた全国の地場業者を募つて、徐々に組織を拡大していく」(石飛社長)考えた。

木炭で床衝撃音問題解決

炭八の導入物件を増やしていく。こうした活動と並行して、技術レベルを一段と高めながら、スラブ厚18cmとグレードの高いマンションでも炭八の効果が立証できる取り組みを数年かけて進めていく。